

事業名 おそきの未来の青写真を創る事業



おそき DE プチ田舎暮らし 田植え体験 6月18日(日)

- 1 実施団体 おそきの学校と地域を考える会
- 2 担当課 3 実施時期 4 参加者 5 実施場所
- 10 事業の実施内容……以上の5項目を実施内容ごとに記載

1) おそき DE プチ田舎暮らし体験 ⇒ 担当課 農林課

①6月12日(日) 田植え体験

参加者：一般 150名、スタッフ 30名 計 180名

市外家族数：多摩地区 14家族

都区内：港区 4、練馬 3、世田谷 2、中野 2、板橋 1、豊島 1

都外：千葉県松戸市 1、埼玉県入間市 1 外国：1グループ

取材：読売新聞 1名(多摩版に掲載)

今回の特徴：多摩地域のイベント告知&

検索ポータルサイト「イマ de × タマ」

⇒西多摩経済新聞、ヤフーニュース、

goo ニュース、dmenu ニュース等へ掲載へ

実施場所：青梅市富岡(乙黒耕地)



参加者もスタッフも年齢幅広く



終了後にみんなで記念写真



地元食材中心手作りカレーライスの昼食付 地域紹介、精米までの展示 & 瓶突き精米体験

読売新聞多摩版などへ掲載され地域 PR

② 8月6日（日） 田んぼの手入れ体験

参加者：一般 18名、スタッフ5名 計 23名

実施場所：青梅市富岡（乙黒耕地）



草の見分け方と取り方の指導



みんなで草取りなど田んぼの手入れを体験

③ 10月15日（日） 稲刈り体験

参加者：一般 43名（申込者76名）、スタッフ23名 計 66名

実施場所：青梅市富岡（乙黒耕地）



雨の為、参加者は大幅減少



始める頃には小雨に



小雨になり、小さい子も楽しめました



終了後は、自治会館にて地産品中心の昼食

2) おそき DE 恋活プロジェクト 2017in 花木園 ⇒担当課 企画政策課

・11月23日(木・祝) 青梅市花木園バーベキュー場にて

参加者：男性5名、女性5名

(知り合いつながりにて募集⇒安全性高くの趣旨)

スタッフ9名(女性：横手・加藤・高山・若林裕美、男性：青木・高山・並木・若林良弘・青梅市企画政策課金丸)

実施内容：ピザ生地作り・ピザ焼き、バーベキュー交流会

コーディネーター中心におせっかい実施

飲み食べフリータイム

ローラーすべり台にみんなで乗る

コーディネーターへ参加者が意思伝達、飲食は継続。

結果をコーディネートし1ペア成立。

みんな連絡先の交換。



スタート・自己紹介



ピザ生地作り



ピザトッピング



火起こし



バーベキュー



ローラーすべり台

3) 交通の不便さへの対応策の検討 ⇒ まちづくり推進課

①協議を3回行い、地域住民も参加できる形で講演会・ワークショップを実施し、現状の理解を今後の対応策の検討を行うこととした。

②「青梅市の公共交通(バス等)の現状と各地での取り組みについてのワークショップ」を実施。

日程：平成30年1月23日(火) 19:00~20:20

場所：小曾木市民センター会議室

参加者募集方法：地域回覧、おそき一斉メール、考える会会員連絡参加者

説明者：青梅市まちづくり推進課 鈴木主査、池田、コンサルタント2名

出席者：約15名(おそきの学校と地域を考える会会員、第6支会正副会長、中学校長、小曾木市民センター職員、地域回覧による参加者3名)

実施内容：司会 若林

- ・公共交通の現状と各地での対応について（19:10～19:40）
青梅市の状況について（鈴木主査）
資料：青梅市公共交通基本計画（概要）
- ・全国各地での取り組み例や小曾木地区への提言
（コンサルタント：ライテック）
資料：公共交通の現状と今後の課題
- ・考える会からの提案、質問（19:40～19:50）
- ・一般の方からの提案、質問（19:50～20:20）

主な説明内容（市：まちづくり推進課、コ：ライテック）

市：市内のバス路線の一部には現在約1億3千万円の公共負担が実施され多摩地域では最も高いレベル。小曾木地区を通る都バス「梅74」の路線には約2900万円の支援を実施。市民はバス路線の必要性は感じているが、公共負担がされていると認識できているのは半数程度のみ。

市：今後の市としての方針は、バス利用促進への市民意識の改革、公共交通空白地域の改善、公共負担抑制や効果的な活用、現状からみた既存路線の見直し。

コ：全国各地のバス路線も赤字化が進み、公共事業者の9割、民間事業者の7割が赤字状況。路線廃止が毎年2000km程度となっている。青梅市でも30年4月に「市民斎場線(河14)西東京バス」が廃止予定。

コ：小曾木地区（診療所バス停基準）では、東青梅駅方面の運行本数は31本と一定数はある状況。ただし、いつ縮小、撤退となってもおかしくない状況。一度なくなったら復活はない。積極利用で利用状況改善が重要。

コ：全国各地の取り組みとしては、バス路線がなくなった場所では、自治会や地域団体がボランティアで10名乗りの車を運行している例はいくつもあり。営業運行はできないため、自治会費などによる運営での無料運行。既存路線がある場所で行うと既存路線の乗客が減少し、路線廃止につながるためできない。

コ：成木地区ではオリジナルマップを作成し利用促進を図って路線維持の努力実施。

コ：今後の取り組みとしては、定期的にバスのニュースレター（バス経営状況、利用状況、危機感の共有など）を発行する方法も。地域活動にバス積極利用、バス乗り方相談会開催、公共交通利用について考えるアンケートなども。

主な質問、提案内容および回答

①バスを小型のコミュニティバスに変えて経費を抑えて本数を増やす方法は？

⇒バス運行の8割は人件費。小型に変えても大差が出ない。

②空白路線として、黒沢地区の柳川から青梅坂を通過して青梅駅方面の新規路線希望、小曾木地区の岩蔵から立正佼成会を通過して小作駅方面の新規路線希望があるが？

⇒新規路線はバス会社が採算が見合うかなどで決めている。

③バス時刻の西武バスと都バスで近すぎる状況がある。診療所バス停の時刻表からは重複はあまりないが、路線が多く通る柳川バス停などでは顕著。黒沢地区での自治会ではバス会社との話し合いも実施

- している。今後もっと調整が必要。
- ④「バスを残して欲しい」という意志を地域共有するには、「各家庭からお金を出してもらう」ような刺激的な取り組みも必要ではないか。
 - ⑤まちづくり推進課としての目標をはっきり示して市民生活の向上を推進して欲しい。
 - ⑥大局的にみると、青梅市の人口、小曾木地区の人口とも減少している。産業を誘致し、人口増加につなげるような施策を取ることが重要。
 - ⑦地縁団体がどのような活動をしているか、各地の先進活動状況をもっと把握する必要がある。小曾木地区の動きで言えば、考える会のような活動、自治会活動、支会長OB会の活動などでの活動活性化も大切。
 - ⑧日曜日の西武バスの終了時刻が早すぎる。飯能駅とのつながりも富岡地区側は強いので、美杉台を通過して岩蔵から小作方面への路線も考えられるのではないか。
 - ⑨自治会行事、高齢者クラブ行事などは、バス時刻をもっと意識して開始時間を決めて、路線バスを活用しても移動をもっと勧めることも大切。

今回のワークショップを通じての感想

考える会では、今までも地域回覧を出しての参加誘致を様々な時に行ってきた。その中で今回は3名の一般参加があったのは最大人数だった。バス路線への関心の高さを表している。

バス路線の現状を一般市民に広く知らせ、採算が合ってこそそのバス路線であり、すでに多額の公共負担も実施している危機意識とバス路線を守るためには意識して乗車することが大切であることを周知する必要性を感じる。

今回は、まちづくり推進課との協働で、青梅市側に周到的な資料などを含めた準備をしていただき深い内容でのワークショップとできたことに感謝したい。今後まちづくり推進課と緊密に連携を取り、バス路線の維持に努めたい。

5) 小曾木地区の小中学校のあり方の検討 ⇒ 担当課 教育総務課

(学校児童生徒数減少への対応が急務)

①事前協議を経て、教育総務課と考える会にて協議する場を2回設定。

②第1回協議 11月24日(金) 9:00~10:30

場所：市役所会議室

参加者：青梅市教育総務課 浜中課長、学務係 篠田係長

考える会 柳内会長、横手会計、若林事務局長

内容：考える会は小曾木地区の小中学校の児童・生徒数の減少を危惧して設立された。設立当初は学校について考えていたが、地域について考えないと打開策がないので、学校と地域について考えることに幅を広げた。しかしながら児童・生徒数の減少は激しく、今年七小へ入学した児童は9名と1ケタまで減少してしまった。地域としては一刻も早く対策を打ちたい。

⇒学校の規模については、学校規模適正化委員会にて検討を行っている。

今後を考えたとき、1つの区切られた地域の中には学校が必要。ゆ

っくり考えている余裕はないので、できることから検討して欲しい。
考える会からの提案を数点。

- 1)小曾木地区を小中一貫校のモデルケースとする。それにしても、住居数に限りがある小曾木地区では児童・生徒数を増すには、青梅市全域からの通学が必要。将来は小曾木市民センターなども学校内に集約されることも考えられるとも思っている。
- 2)スクールバスを運行できるなら、スクールバスと地域を走るバスの一体化を図ることも可能だろう。
- 3)まずは、クラブ活動などの学校特徴を活かした部分での、地区外からの通学などができないか。
- 4)自然体験や文化体験で子どもたちは成長する。そのあたりが特に恵まれた小曾木地区を活性化のモデル地域として進めて欲しい。
- 5)次回は2月頃に再度意見交換を行いたい。

③第2回協議 2月20日(火) 11:00~12:00

場所：市役所会議室

参加者：青梅市教育総務課 浜中課長、学務係 篠田係長
考える会 柳内会長、横手会計、若林事務局長

内容：考える会が作成した「小曾木地区の未来の青写真（小中学校関連部分）」を提示し、1年後~5年後、5年後~10年後、10年後~20年後についての意見交換。

- 1)1回目の協議結果を基に青写真を作成したため、早急に対応が必要な点、方向性など一致した。
- 2)開催された「平成29年度第2回青梅市総合教育会議」、これから開催する「学校規模適正化委員会」などにより、青梅市としての方向性も明らかになっていく様子。
- 3)次回は5月頃に再度意見交換を行いたい。

6)空家活用推進事業 → 担当課 住宅課

①事前協議を経て、事業の目標である空家の持ち主との面会10件へ向けて該当空家の抽出を行い、13件を抽出した。

②第1回協議 11月24日(金) 11:00~12:00

場所：市役所会議室

参加者：青梅市住宅課 清水課長、田島住宅政策係長
考える会 柳内会長、横手会計、若林事務局長

内容：空家の持ち主との面会し個別の状況を確認したい。13軒ピックアップしたので、青梅市と協働で所有者へ空家を求めている現状説明へつなげるため資料の郵送などを行っていただき、意思確認をしたい。

⇒所有者情報を住宅課が担当部署へ請求する根拠としにくいレベル。資料の郵送は難しい。

郵送は難しいため、住宅課と考える会の協働での訪問とすることとなった。

③空家訪問 1月11日(木) 9:00~12:00

場所：小曾木地区各所

参加者：青梅市住宅課 田島住宅政策係長
考える会 若林事務局長

青梅市住宅課と考える会にて空家と思われる 13 軒訪問

内容：今後の意向をお伺いする文書、返信用封筒、訪問趣旨、青梅市空家バンク紹介、田島係長の名刺の5点を入れた封筒を準備。

訪問し状況確認。近所に人が居れば状況のお話を伺う。

郵便受けが使われているようであれば封筒を入れる。

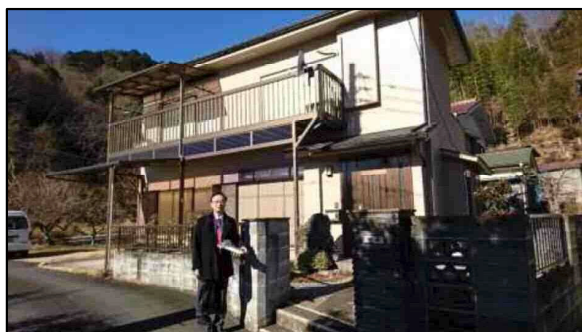
結果：空家に見えるが居住されていたお宅⇒1軒（ご近所からの話）

空家だったが入居済みのお宅⇒1軒（表札名の変更状況より）

封筒を投函したお宅⇒9軒

投函不能のお宅⇒2軒（ポストなし、閉鍵）

「ご意向伺いへの返信・問い合わせ」への返信が2通あり。



④訪問終了後、全事業の進行をと合わせて、事業全体のとりまとめを行い、「おそきの未来の青写真を創る」作業のまとめを行った。

7) 楽しめる、安心でき幸せを実感できる自治会活動の推進への協力

⇒ 市民活動推進課（小曾木市民センター）

①小曾木地区の自治会へ自治会館の利用方法について、自治会運営の工夫などについてのアンケートを実施（2月9日）

②転居者などに向けての自治会加入促進としての各自治会の特徴を写真などで明記したポスター例を作成し、無料作成を各自治会へ打診した（2月9日）

内容：小曾木市民センターを通じて小曾木地区の自治会へアンケートをお願いして回収、内容のまとめを実施した。

6 事業の目的

* 昨年 of 青梅市市民提案協働事業「ようこそおそき事業」で行った小曾木地区総合意識アンケートの結果を受けて、小曾木地区で早急に取り組みを開始すべき内容と、未来へ向けて小曾木地区で創っていくべき内容を地域住民にもわかるように提示し、地域の魅力を高め、住み続ける安心感を高める。

* 『行政テーマ提案「多世代が交流できる地域環境づくり」多世代が交流し合い地域における顔の見える関係を再構築できるよう、子育て世代にとっての集いの場、相談できる場、元気高齢者にとっての活躍の場などを複層的に取り組む事業提案。』・・・小曾木地区の高齢者が不安に思っている中のひとつ、日常生活に必要な買い物を行う方法をどう確保するか。自治会館の活用、空き家の活用などへ向けての場所と人の具体的な方策を検討し、実現可能な形を模索する。

7 役割分担

1) 団体の役割

- ・事業の実施
- ・市内他地域からの情報提供依頼への対応

2) 担当課の役割

- ・事業実施へ向けての情報交換
- ・事業実施へ向けての考える会への情報提供
- ・市内（広報おうめ）、市外へ向けての情報発信（プレスリリース）

8 事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

- ・青梅市の施策と協働して進めることにより、地域側が誤解なく現在の状況を深く知り、自分たちが歩むべき方向を知り、やるべきことがわかる。
- ・団体だけでは得られない青梅市外への信頼感高い情報発信

9 目標達成

- *小曾木地区のすべての自治会館の使用料、条件などをまとめる。
⇒アンケートの回答ただけた自治会についてまとめることができた。
- *小曾木地区の空家の持ち主との面会10件。
⇒空家13件を訪問しポスティングにより持ち主の意向を当たった。
結果、2件から回答をいただくことができた。
空家をすぐに活用する意向をお持ちではなかった。

11 実施団体と担当課の事業評価

4 はい 3 どちらかといえば「はい」 2 どちらかといえば「いいえ」 1 いいえ

調査項目	考える会	農林課	考える会	企画政策課	考える会	まちづくり推進課	考える会	教育総務課	考える会	住宅課	考える会	市民活動推進課
(1)事前の話し合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	3	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3
(2)事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
(3)協働の役割分担は適切だった	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
(4)協働相手は適切だった	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
(5)対等な立場での協力関係を築けた	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4
(6)協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
(7)事業実施は円滑になされた	4	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3
(8)設定した目標が達成された	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3
(9)協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	3	2	3	3	3	4	4	4	3	3	3	4

12 まとめ（今後の課題や改善点など）

- 1) 昨年実施した地域全員アンケートの結果から地域住民の方々、高齢な方が様々な不安を抱えた中で生活されている部分へ対応すべくテーマ設定を行い事業が実施できた。
- 2) 行政の財源も縮小を進めなければならない中、充実した地域活動が展開されるよう住民の意識を変えることは簡単ではない部分も強く感じながら、方向性は見えてきているように感じる。
- 3) 未来の青写真を明文化することにより、今後へ向けての地域の課題はわかりやすくなった。作成した未来の青写真を住民への地域の未来の「見える化」として展開を進めながら、今後の地域について考えていきたい。

13 その他

- ・特になし

以上